

令和 5 年度  
学校関係者評価 報告書

令和 6 年 3 月 29 日実施  
学校法人 エイシンカレッジ  
長岡こども福祉カレッジ

令和6年4月3日

## 令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人 エイシンカレッジ  
長岡こども福祉カレッジ  
学校関係者評価委員会

学校法人 エイシンカレッジ 長岡こども福祉カレッジ 学校関係者評価委員会は令和3年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告致します。

### 1. 基本方針

本学における学校関係者評価は学校自己評価（項目別の自己評価表）を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

また、公表については「長岡こども福祉カレッジ 学校評価実施規定」に則するものとする。

### 2. 出席者一覧表

名前	役職	所属（企業・団体名）
＜学校関係者評価委員＞		
元井 信明	代表	合資会社 ケアサポート長岡
細貝 信行	支店長	株式会社 エイエィピー
米山 光行	事務長	社会福祉法人 朋友福祉会
＜事務局＞		
伊東 美子	学科長（介護福祉科）	長岡こども福祉カレッジ
名地 宙	学科長（社会福祉科）	長岡こども福祉カレッジ
嘉代 由美子	学科長（こども保育科）	長岡こども福祉カレッジ
＜進行＞		
小林 幹直	事務局長	長岡こども福祉カレッジ

### 3. 委員会次第（概要）

- ・開催日時 令和6年3月29日（金） 13:00 ～ 15:00

・実施場所 長岡こども福祉カレッジ 5F 教室

(1) 自己評価に関する改善討議

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

(以上の評価項目に関するご意見・ご提言を頂いた)

(2) 委員による総括

4. 学校関係者評価委員による評価・指摘事項

① 教育理念・目標

- ・個人の多様化が進んでいる。福祉業界では大変重要なトピックスである。授業でこれらの話題に触れ、グループワークをおこなったらどうか。
- ・介護福祉士と社会福祉士の国家試験の結果を確認した。よく指導できている点は引き続き励行して頂きたい。改善を要する点は各科で話し合い向上して欲しい。
- 特に社会福祉科は来年から新科目に変更になるわけなので、対策を研究して頂きたい。

② 学校運営

- ・学生、教職員に対し、定期健康診断を実施できている。

③ 教育活動

- ・訪問介護業務を外国人もおこなえるようようになってきている。1対1の業務になるのでこれまで以上に高い日本語能力が必要になるので留学生を支援して欲しい。
- ・教職員の研究の機会が十分とさえいえないように感じる。  
「忙しい → スキルアップの機会喪失」という悪循環に至らないように学校全体で計画して欲しい。

④ 学修成果

- ・施設の現場では、介護業務にあたる目安として日本語能力N2取得が1つの基準になっている。留学生がN2を取得できる学習環境を整えていく必要を感じる。
- ・通信制高校のニーズが高まり、多様な学習経験を持った学生が在学している。授業に出席できず、退学につながる精神的・体力的負担が大きい学生をどうケアしていくか学校全体で研究して欲しい。
- それぞれが「できること（できる仕事）」「社会での役割」があることを理解しても

らうことも重要ではないか。

⑤ 学生支援

- ・福祉の現場で早期離職による人材流出が課題になっている。実習巡回で卒業生の在職状況を確認し適宜関わりを持って欲しい。
- ・経済的支援が必要な学生に対し、学生課とクラス担任が一体となって対応している点を評価したい。

⑥ 教育環境

- ・年始に能登半島地震が発生した。地震を想定した避難訓練をおこなったらどうか。学生への指示の出し方、特に留学生対応などを確認した方がよい。
- 保育・福祉の現場では火災や地震が発生することを常に意識して業務している。

⑦ 学生の受入れ募集

- ・適切な募集活動がおこなわれている。
- ・学納金の値上げが図られた。物価やエネルギー資源の高騰に対応した運営ができている。

⑧ 財務

- ・予算の計画、実績把握が適正におこなわれている。
- ・インボイス制度に対応した会計事務が取られている。

⑨ 法令等の遵守

- ・法改正の情報は重要なので学内で情報共有をしっかりとこなって欲しい。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・未だコロナの影響があるが、ボランティア活動の機会が少しずつ増えてきている。施設の方針に従って学生を送り出して欲しい。

～学校関係者評価の総括～

学校の自己評価を基に令和 5 年度の学校活動に関して検証した。教育活動やその成果に関しては概ね適正であると評価する。ただし、研修機会の創出や業界の動向に沿った教育課程の考案など、常に考え新しい価値を学生や社会に提供できるように努めて頂きたいとこ

ろである。本委員会も引き続き提言に努め学校運営の発展に寄与していきたい。